

オーストラリアの国民的マリンスポーツ

サーフィン

マリンスポーツの代表格として、若者から絶大な支持を得ているサーフィン。オーストラリアでも人気が高く、西オーストラリア州(WA州)でも盛んに行なわれているサーフィンが、「ショートボード(男女)」の2種目でIOCへ提案されようとしています。若者のライフスタイルというイメージの強いサーフィンが、どのような歴史を持ち、競技としてどのように行なわれるのか、またパースのサーフィンについても紹介します。



©一般社団法人日本サーフィン連盟
第50回全日本サーフィン選手権大会にて。

選出理由

なぜ TOCOG はサーフィンを IOC に提案するのか？

マリンスポーツの代表格として、若者のライフスタイルに大きな影響を与えており、トップアスリートたちはサーフィンを通じ、流行を生み出す存在として、多くの国で若者の絶対的な支持を得ています。ビーチで音楽と共に開催される競技は、大会により一層の祝祭的要素を加えることができると考えたからです。



サーフィンの歴史

サーフィンの歴史は古代と現代の、大きく2つに分けられます。

古代サーフィン

ハワイ島やタヒチ島に住んでいた古代ポリネシアの人々により発明されたとされる古代サーフィンの歴史は古く、少なくとも西暦400年頃にはサーフィンの原形のようなものがすでに存在していたと言われています。しかし、ヨーロッパの人々がポリネシアを発見したことで、欧州の文化や宗教がそのポリネシア諸島に流れ込み、古代サーフィンは終焉を向かえてしまったのです。

近代サーフィン

20世紀初頭になり、再びサーフィンをしようとする動きがハワイ島で起こりました。近代サーフィンの普及において主要な役割を担ったのが「近代サーフィンの父」と呼ばれるデューク・カハナモク氏です。1915年の1月15日、オーストラリアのシドニーで行われたカハナモク氏のエキジビションは有名で、それによりオーストラリアでは、サーフィンが国民的なスポーツへと発展を遂げました。カハナモク氏の偉業を称えるため、ハワイのワイキキ海岸とシドニーのフレッシュウォーター海岸には彼のブロンズが建てられています。近代サーフィンは、特にハワイやカリフォルニア、そしてオーストラリアなど世界各地で急速に発展し、現在もサーフボードの発達に伴ってサーフィンのライディングテクニックも進化し続けています。



競技としてのサーフィン

サーフィンは採点競技です。ジャッジングは国際基準に沿った統一ルールで行なわれます。サーフィンの大会では、次のような要素が評価されます。

- 1 崩れそうな波のリップ(*1)で行うマニューバー(*2)はリスクを伴うので、ハイスコアの対象。
- 2 スピードとパワーを伴っているか、減速せず波に合ったマニューバーであるか、といった点が評価のポイント。
- 3 ハイスコアの対象となるマニューバーが、積極的にコントロールされているライディングならば、ジャッジ基準の中で最も高い得点となる。
- 4 エアリアル(*3)などのダイナミックなマニューバーを成功させれば評価の対象。
- 5 バリエーションに富んだマニューバーを組み合わせさせたライディングは高評価。
- 6 難易度は評価の重要な要素。マニューバーの回数やライディングの距離ではなく、技術のレベルがスコアに反映。
- 7 ハイリスクなマニューバーに高いスコアが与えられる。

*1 リップ…波のトップの崩れているところ *2 マニューバー…波の上でボードの向きを変えること *3 エアリアル…波からサーフボードと共に飛び出して再び着水するテクニック
※一般社団法人日本サーフィン連盟ウェブサイトの「競技規定」より参照

情報元：Nippon Surfing Association (一般社団法人 日本サーフィン連盟) ウェブサイト：www.nsa-surf.org
1965年に設立。日本におけるサーフィン界を代表し、その中枢機関としてサーフィン競技の健全なる発展ならびにサーフィンの普及を図る。また、サーフィンを通じて海への関心を高め、健康な身体の育成を図り、国内及び海外のサーファーとの親睦を目的としている。